第３回安全・安心と暮らし専門分科会議事概要

１．日時
　　平成１９年６月１３日（水）１３：３０～１６：００

２．場所
　　ウェルシティ金沢

３．出席委員（敬称略）
　　高山座長、石田委員、伊藤委員、川上委員、酒井委員、惣万委員、松森委員、村島委員
（計８名）

４．議事（概要）
（１）開会
（２）資料説明
　　事務局から検討資料、参考資料について説明
（３）意見交換
（４）座長とりまとめ
（５）閉会
　　今回で当面一区切り

５．主な発言内容
・北陸では新たな「公」の役割を担うＮＰＯが増えているので、その旨強調して欲しい
・地球環境問題や争い事などの問題は人の心（精神性な部分）に起因するものであり、この心は哲学（宗教・道徳）により支えられている。北陸は禅や哲学、医学、精神性の高い文学などに著名な人材を輩出しているということを強みとしてもう少しアピールしても良いのではないか
・強み一つとして「65歳以上人口千人あたり介護老人福祉施設定員数」を挙げているが、本来デイサービスやショートスティによる介護サービスの充実を目指すべきであり、逆に弱みとして捉えるべきである
・北陸は介護３施設が全国的に見ても多いが、規模の大きいデイサービスも多い
・北陸圏の強みと弱みをストック（全国における位置付け）として評価するか、フロー（今後の伸び）として評価するかをしっかりすることにより北陸の特徴が見えやすくなる
・方向性の検討にあたって、どういう視点から見た強み、弱みを捉えるのか。ユーザーの視点から見た方が良いのではないか
・強みと弱みは表裏一体の関係にありその辺をしっかり整理する必要がある
・方向性、課題、実現方策の例が同じ階層で表現されていてわかりにくい
・北陸が持っている一番の特徴は安心して生活できることである。働く場や子育て、医療・福祉環境が整っているのではないか。安全・安心の基本理念としては「命」にあることをしっかり認識すべきであり、これが北陸での宗教や哲学の背景とリンクしているのではないか
・方向性の優先順位を考慮した方が良いのではないか
・新たな「公」という言葉が多用されているが、新たな「公」の北陸モデルを作っても良いのではないか
・人材育成については今後どのような人材を育成していくのかが分かるようにする
・交流は目的ではなく手段であるため、なぜ交流するのか、交流が何を生み出すかについて考える必要がある
・方向性の書き方が長くわかりにくい。中学生にも理解できるような書き方にた方が良いのではないか
・富山県は貯蓄率も日本一で暮らしやすいと思うが、イメージが暗く、知名度も低い。でも高校生にイメージする色を聞くと「青」との答えがあり明るさを感じる。どのようにして知名度を上げていくか
・「環日本海交流を先導」や「日本海国土軸の中枢」という記述があるが、リーダーとか先頭ではなく２番、３番でも良いのではないか

・北陸３県それぞれの個性や特徴もあるのでそれを尊重する必要もあるが、３県が一緒に行うという取り組みも重要である。実効性を担保するためにも広域地方計画の意義を書く必要がある
・北陸地域の広域地方計画をつくる上での目指す方向性をしっかり整理する必要がある

（速報のため、事後修正の可能性があります。）